

# 漁業経済 学会短信

No. 10  
66. 8

## 第十三回漁業経済学会

### 大会開催さる

昭和四十一年六月八日午後五時から、代々木荘において全国理事会が開かれ、本年度大会の幕が切つて落された。九日午前一〇時から日本大学経済学部で一般報告が行われ、

- 一、庄内浜における漁民層の分解と出稼  
山形県加茂水産高校 土井秀夫
- 二、漁業における埋立補償の経済的問題  
内海区水産研究所 長谷川彰
- 三、漁民運動からみた沿岸漁業  
淡水区水産研究所 西村章作
- 四、日本漁業の就業構造  
東京大学大学院 堀口健治
- 五、マクロ漁船の水揚労働について  
労働科学研究所 岩崎繁野
- 六、中小漁業の雇用改善について  
漁業協同組合学校 赤津久夫
- 七、近世漁業の村落への影響  
三重県成徳中 和田 勉

ハ 関西のカマボコ製造業の問題点  
兵庫県防勢中 吉木武一

九、生産地における水産物の流通形態  
北海道大学大学院 池田 均

十、沖合底曳縄漁業の生産性と収益性  
水産庁企画課 井上和夫

の十人による報告が行われた。  
続いて六月十日の第二日目のシンポジウムでは、

一、漁業生産力展開の自然的技術的制約  
一 小零細漁業存立試験論

北海道立総合経済研究所 工藤 勲

二、沿岸漁業の問題点  
長崎県経済研究室 秋山博一

三、水産統計からみた沿岸漁業の現状  
農林省水産統計課 小松昭介

四、沿岸漁業の動向と問題点  
水産庁企画課 平沢 豊

の四人によつて報告が行われ、約二時間熱心な討論が続けられた。続いて午後四時から会員総会が行われ、事業報告、会計報告、収支予算案の検討に続き、常任理事より学会会則第三章第五条の「個人会員の会費は年額二

〇〇円とし」を、「個人会員の会費は年額「五〇〇円とし」と改正したい旨をはかり満場一致で可決された。続いて「漁業経済学会」を「水産経済学会」と名称変更したい旨の動議が出されたが、

来年の学会まで各会員が検討した上で、討議する旨決定した。

その夜は日大附近の「桃園」で懇親会が行われ会員約三〇名に、農林水産会議事務局長・久宗高（現水産庁長官）が出席され、歓談に時のたつのを忘れた。三日目の十一日には水産加工のイクスカッションで、カマボコの「大寅」、珍味の「浜藤」、大洋漁業月島工場の電子計算機室を見学し、無事に本年度大会の全日程を終つたのである。

(M 記)

## 会計報告

昭和四十年年度会計報告、および昭和四十一年度予算案は、原案どおり総会において承認されました。その概要は別表のとおりです。なお、その前に会則の一部変更が承認されました。つまり会費を従来年額二〇〇円であつたものを、印刷費、通信費等の諸物価の値上げに伴い、一、五〇〇円にす

るというものです。従つて会誌の販売単価も三〇〇円から四〇〇円に値上げすることになりました。

昭和四十年年度の会費納入状況は極めて悪く未収金は合計一七万円にものぼっており、このまゝでは、会誌の定期的な刊行もむづかしくなつております。未納者には、たびたび督促状を出しておりますが、学会の発展のために、早速会費を納入されるようお願い致します。また、四十一年年度の会費一五〇〇円もなるべく早く納入されるようお願い致します。

(会計担当理事)

### 真珠産業の現況と将来の方向

わが国の真珠輸出は、農林水産物の輸出金額の一〇%を占め、世界市場のほとんどを占有している重要産業である。特に戦後の発展は沿岸漁民の生業として重きをなしている。沿岸漁業の主柱となる養殖業の中に占める割合は三八% (昭三八年) である。急速に発展した業界は、密殖、品質、価格、イミテーション、パール等の諸問題がある。本書は、概説、現況、将来の方向に沿つて述べた真珠白書として、水産庁振興課が中心になつて執筆したものである。

(発行) 日本真珠振興会  
東京都中央区京橋三ノ七

### 昭和四十年年度決算額と昭和四十一年度予算額

|      |            | 昭和四十年年度 決算額 | 昭和四十一年度 予算額 |
|------|------------|-------------|-------------|
| (収入) | 会費         | 三五、三六〇〇 円   | 六五、〇〇〇〇 円   |
|      | 会誌売上       | 三一、四二〇      | 一七、〇〇〇〇     |
|      | 広告料        | 二五、〇〇〇 }    | 三、〇〇〇〇      |
|      | 寄付金        | 三〇、〇〇〇      | 一〇、〇〇〇〇     |
|      | 雑収入        | 七六、六八〇      | 〇           |
|      | 借入金        | 〇           | 〇           |
|      | 特別会計より繰り入れ | 一二、三一六      | 〇           |
|      | 前年繰越       | 八三、三〇五      | 四四、八七三      |
|      | 計          | 七二、三二一      | 九四、八七三      |
|      | (支出)       |             |             |
|      | 会誌印刷       | 三二、二六〇      | 四八、〇〇〇      |
|      | 通信発送       | 四四、六六一      | 六〇、〇〇〇      |
|      | 事務局費       | 一四、七四二      | 一六、〇〇〇      |
|      | 会議費        | 一〇、〇六〇      | 一〇、〇〇〇      |
|      | 大会経費       | 九五、五六七      | 六〇、〇〇〇      |
|      | 負担金        | 一〇、八〇〇      | 一、二〇〇       |
|      | 雑費         | 四六、六八〇      | 三八、〇〇〇      |
|      | 未払分支払      | 〇           | 一〇、五〇〇      |
|      | 特別会計繰り入れ   | 〇           | 五〇、〇〇〇      |
|      | 次年度へ繰り越し   | 四四、八七三      | 一、九八七三      |
| 計    |            | 七二、三二一      | 九四、八七三      |

## 学会名称の変更について

### 常任理事会

本年度総会において、一理事より、漁業経済学会の名称を変更して、「水産経済学会」にしては如何との提案がなされ、本年一年間会員の意見を徴して、来年度総会において、提案の可否を決定することとなりました。

漁業経済学会の名称は、過去一二年の風雪に耐え、会員に親しまれ、外部に対してもよくよく認識されるようになりました。この名称を変更するのは、会員の中に多くの愛惜の情があると思われます。

一方、会員の研究活動範囲が広まり、且、社会経済情勢の変化によつて、会に要請される研究内容は、漁業のわくを越え、水産物の食品、非食品加工、養殖飼料、関連産業、コールドチェーン、流通の諸問題、消費問題、地域開発等に及びつてあります。

かゝる事情のもとに、学会名を水産経済学会と改称することは会の実質的な活動の名称への反映となり、特に外部に対して、より効果的と考えられるというのが提案の主旨であります。

このことについて、会員諸兄はどう考えられるか、賛否のご意見を本部迄、葉書でよせられるようお願いいたします。

## 地方通信

### 時々集つて研究会

#### 東京支部

漁業経済学会員の一番多い東京に支部をつくり、定期的な研究発表や講演会等を開く必要が盛りあがつて秋から活動に入つていきます。

在京の会員といつても全部が出席すること也不可能なので、申込制をとつて、申込のあつた会員にのみ連絡をしています。現在五〇名余りが登録され、会は二、三〇名が出席しています。会員は年二〇〇円徴集し通信連絡、講師謝礼等に当て、世話人は、井上和夫、西村章作、今村弘二が当つています。

現在迄の活動は、下記研究会を開きました。

#### 第一回 一〇・一六日

「主要許可漁業の生産性と収益性」

報告者 水産庁企画課

浅田陽治他二名

要旨―漁業管理に対する経済学的接近の試みとして、遠洋マグロ 沖合底びき 大中型まき網の三業種について経済的漁獲努力を階層別 海区域別に推計し、投入された経済的漁獲努力と物的生産性及びその相関を分析した。これは従来、資源研究から最大限持続的生産量(M・S・Y)を求めてきたのに対し、経

営の観点から、経済的最適漁獲努力量を求めようという試みである。

#### 第二回 一一・一九日

「日韓漁業交渉の問題点」

報告者 日本朝鮮研究所

寺尾五郎

日本社会党

手島 博

要旨―寺尾氏は、ベトナム戦激化の情勢下における日韓国交回復の政治、経済的意義を明かにし、日韓交渉における漁業協定の果す役割について、手島氏は、海洋自由の原則と日韓漁業協定との関係、わが国漁業に与える影響について、問題点を詳細に検討した。

#### 第三回 二・一九日

「水産物輸入の諸問題」

報告者 水産庁企画課

岩崎寿男

要旨―漁業生産の停滞、価格上昇が起り一方日韓条約締結があり、水産物輸入増大傾向が起つてゐる。これに対し如何に対処すべきか、貿易自由化、食糧自給、国際分業、漁民保護問題の中から検討し、国内漁価維持のためには規制の必要がのべられ、手段方法を検討した。(井上 記)

#### 第四回 七・九日

#### 「中国漁業交流報告」

報告者 全漁連

浜崎礼三

井出漁業使節団員として中華人民共和国を訪れた帰朝報告。

次回予定 九月

「ゴールドチエンについて」

需要研究所 石井金之助

#### 金沢を中心とした北陸四県

日水研より内橋、西村の両氏、金沢大学より蔽内氏が去つてよりすでに久しい。三氏の活躍が活発であつただけに、残されたわれわれには大きな支柱を失つた感がして仕方ないというのが本音である。日本海側、とくに北陸は、新潟、富山、石川、福井の四県をとつてみると、わずか八名であり、会員の層の薄さを物語るとともに、この地方に根をおろした地方的な研究の不活発と停滞性を如実に物語っているといえる。私自身も年一回の大会には万障を繰合せて出席するように努めてはいるものの、時として出席出来ないこともあるという有様、在京の理事の方々より日本海側諸県に支部を作れないものかといわれたり、会員の獲得を命ぜられても、その期待に

応えるような体制作りすらも出来ぬまゝに過ぎて来たというのが、この数年間の北陸地方の実情である。私自身、毎年夏期休暇を利用して、主として北陸地方の漁村の実態調査をするが、その際、各県の水産課を訪問する際、いろいろお世話になる水産課の方々が、本会の会員であつたらどんなにか心強いことであらうし、便宜であらうかと思つてもみる。折にふれて入会をすゝめることもあるが、私のすゝめ方がまずいせいか、いまだかつて一度も成功したことがないのは残念なことである。数少い会員の中から、最近の研究成果を私の知り得た範囲内でご紹介すると、杉山ふみ氏（金沢二水高）は五月十四日、日本地理学会例会（金沢）で「戦後における日本海域の鯔刺網漁村の変貌」と題して講演した。これは主として、石川県の金石、大野漁村の実態調査を通じて、石川県の県外出漁の中心的存在として重きをなして来た鯔流刺網が衰退したことによつて、これらの漁村がどのようにに変質したかをダイナミックにとらえて分析している。これは間もなく、日本地理学会機関紙「地理学評論」に投稿され、後日発表される予定である。かく申す私も、この数年來の持病になやまされながら、昨年夏と今夏、学生卒業論文の指導を兼ねて、富山県魚津と

水見灘浦地区を実態調査し、定置漁業への依存からみた両漁村の対比を通じて、富山県の、さらに出来得れば北陸型の漁村の性格を浮彫りにしてみたいと思つている。近くまとめて、出来得れば本学（金沢大学）紀要に投稿したいと思つている。

今夏の私の調査の際にお世話になつた湊晨氏（氷見市上伊勢）が入会されることになつたのは、会員の少ない北陸のものにとつてはよろこばしい限りである。ちなみに同氏は、氷見市の商工会議所の会頭や教育委員長などをやつておられる。

（柿本典昭）

#### 発展する沖繩のマグロ漁業

七月二十一日から二十八日まで大阪府高等学校社会科研究会の一員として沖繩へ旅行してきました。現地解散を希望したのですが、教育委員会の指示により、残念ながら鹿児島港へ上陸後解散ということになり、沖繩滞在はわずか七四時間でした。その間、自由時間を有効に使つて、琉球政府経済局水産部をはじめ、漁連や那覇・名護の漁協を訪ねて、聞き取り調査をしましたので、沖繩の水産業の概況を知ることができました。今回はあくまで予備的な調査で、来年

か、再来年、再び島に渡り「戦後の米軍支配下での水産業の歩み」を調査したいと思っています。

漁撈、養殖、加工合せて約一万人（第一種兼業を含む）が水産業に従事し、二四〇〇〇t（一九六五年の属人統計）を水揚げしています。その中で最も重要な漁業はマグロ延縄で水揚げ量の四一%、全額の四四%を占めています。これは一九六二年まで日本政府水産庁から五〇t以上のカツオ、マグロの許可枠が一、四〇〇tに規制されていたのが、六二年に二、二五〇t、六三年にも同じく二、二五〇t増加され、六四年には一、三〇〇tまでの範囲で自由に許可できる様になったからです。一方、日本の三九型にあたる許可を必要としないう四九t以下も、これに刺戟されて急増し、今や沖縄はマグロブームです。五〇t以上の許可は現在約八〇〇tでまだ四〇〇tも余裕があります。資金面でも、漁船建造に対する政府の融資（日本の農林漁業金融公庫と農林中央金庫をいっしょにした様な農林漁業中央金庫を通じて中小経営へ）も米国の融資（余剰農産物の売上金で設立した琉球開発金融公社を通じて大経営へ）も増額されたからです。自己資金一割、融資九割で一〇〇t以上のマグロ漁船を造った業者もいます。現在

五〇t以上のマグロ漁船は三〇隻あり、最大の船は四九三tですが、そのほとんどは沖縄での水揚げせず、焼津、清水、築地へ水揚げしたり、海外基地や大西洋操業です。このため、マグロは六二年までは三、〇〇〇tも輸入していたのですが、今では五、〇〇〇tも輸出しています。六五年の水産物の需給は、輸出二二〇万弗に対して輸入六七〇万弗ですが、その輸出の約七〇%はマグロです。潜水追込み、漁業で有名な糸満は近代化がおくれ、漁業の中心は那覇へ移りました。地方の漁業者で漁船を大型化して沖合遠洋へ出漁する様になったものは那覇泊港に集まりました。この港は商港ですが、東南の一角に琉球漁連と那覇地区漁協の魚市場や冷蔵庫があり、両市場の取扱量は沖縄水揚げ量（属地統計）の五〇%以上を占めます。経営t数二〇〇tを越える大経営は約十社あるが、最大の企業は大洋漁業と現地資本琉球食品の合併である琉球漁業です。遠洋マグロの他、大洋の船を使用してスタントロールや以西底曳をやっています。この様な大経営の漁獲物はほとんどがマグロで、沿岸や沖合の漁場に豊富なヒメダイなどの底魚やカツオを対象とする漁業には進出していません。これは海底地形の關係で底曳ができないことやカツオ餌料が不足する為ですが、約

五〇〇万弗の水産物輸入を減少させるため沿岸漁業を振興させて高級な底魚を鮮度保持して本土へ輸出したり、輸入している魚種を対象とした漁業に進出する必要を感じました。 一九六六・八・一〇

大阪府立桜塚高校 相沢 昂

### 「新刊紹介」

伊豆川・三島・大海原共著「水産経営学」水産学全集20（恒星社厚生閣 一六〇〇円）

本書は水産企業体、殊に漁業企業体の発展過程を、技術的・組織的側面および資本制的展開の両側面から詳述したものである。その構成は、(一)水産経営学の概念、(二)組織論、(三)労務論、(四)中小漁業経営、(五)巨大水産会社の発展、(六)漁業経営の財務、(七)漁場管理、の各章よりなっている。

### 新入会員

佐藤 栄

湊 晨

## 東南アジアを廻る

鹿島大 岩切成郎

謹啓 六月十二日羽田発、わずか四週間のた  
いた目的もない独り旅で、ご報告するほど  
のことはありません。香港（九竜）の新ユア  
マツ魚市場を見物、タイでは中部サラブリ、  
ロブリなどの漁村ーといつても雨季には定置  
や刺網の漁場に変貌ーや、メナム河口・パン  
ナムの小型トロール漁港など約一週間、マレイ  
ンヤではベナン、マラツカを中心に西海岸の  
漁村をいくつか走り廻つて二週間、その後フ  
イリピンで一年半ぶりにマニラの街をぶらつ  
いた行程です。クワラルンブルで聞答した  
水産局長とか、クワラサンガイバル（漁村）  
に住んでいるハル大学漁村経済学者とか、  
それぞれ張切つた人物もいます。

東南アジアの地に触れたのは三度目です  
からそれなりの所感もありますが、それは別  
としてこんな自慰的な在り方では、何等の成  
果も期せない反省が強くなつて来ました。そ  
れにつけても金のほしさよという次第です。

敬 具



## 日本科学者会議発足

昨年七月一日に秋元寿恵夫氏ら一四名の科  
学者が「科学者の全国組織についてよびかけ」  
を発表しました。この「よびかけ」は、日本  
の科学を正しく発展させ、科学者の社会的責  
任をはたすために、科学者の全国的な結集を  
うったえたものです。

この「よびかけ」に対して、科学者の間に  
全国組織結成の気運が高まり、幾度かの準備  
会議を経て、昨年一二月四日に「日本科学者  
会議創立発起人総会」が持たれました。その  
後各都道府県段階の支部結成が急がれ、本年  
五月末に第一回全国大会が行なわれ「日本科  
学者会議」が正式に発足したのです。

「日本科学者会議」の目的は会則に明記さ  
れておりますが、次の四つです。

- (1) 科学の自主的・民主的発展につとめる。
- (2) 生活と権利をまもる。
- (3) 統一と団結を強める。
- (4) 他の進歩的運動との連帯をつよめる。

科学者会議の組織原則は個人加入制の全国  
単一組織です。会員はその職場および居住地  
において分会に組織され、分会が集まつて都  
道府県毎に支部を作ります。現在の会費は  
本部月七〇円で、これに支部費・分会費が加

算されます。会員は月二回刊の機関誌「科  
学者つうしん」と、隔月刊の機関誌「日本  
の科学者」を受取ります。

科学者会議は創立以来まだ日が浅いので  
すが、すでにいろいろな活動を行なつて来  
ましたし、また行なつております。最初  
に取組んだ大きなたかひは、「科学技術  
基本法」反対のたたかひでした。最近では

「建国記念日」反対、原水禁、小選挙区制  
反対等のたたかひに取り組んでおります。  
このようなたたかひとともに、一方では

科学活動にも取り組んでおります。すな  
わち、数度にわたる科学シンポジウムを行  
ない、また「科学者白書」および「公害問  
題」について委員会を作つて検討を続けて  
おります。さらに、松代地震については二  
度にわたつて調査団を派遣しました。

ベトナム情勢が重大化している現在、特  
に日本の科学者の統一が重要になつており  
ます。一人でも多くの科学者が「日本科学  
者会議」に結集することが望まれます。

（川崎 記）

所在地 東京都文京区湯島一九一六

TEL (六二二) 一四七二

## 海外トビックス

### 遠洋マグロに韓、台湾の進出

世界的なマグロ資源の不足の中に、アメリカの缶詰大資本は原料入手のため韓国、台湾の貧弱なマグロ漁業に資金援助をして乱獲をさせている。

アメリカのスターキスト、パンキヤツプの缶詰独占企業は、両国の水産会社に融資、借款を与え、大型船を造らせ自社の系列下におき、サモア島方面に出漁させている。これには、日本の大商社が、両国に漁船のエンジン資材更に水産技術の提供をせんとしている。この結果、日本のマグロ輸出価格は、両国との競合の結果、買叩かれ、更に乱獲の結果、魚体の小型化、漁獲高の低下が現れ、中小マグロ業者の経営は困難になつてゐる。

### スペイン専管水域を設置

スペイン政府は、サワラ沖の今迄の領海六カイリの外に六カイリの専管水域を設ける準備をしている。ラス・バルマスには今秋以降日本のトロール船の六七〇隻が操業することになつており、この措置によつて大きな打撃を受ける。

## 水産学会紹介

水産学という範ちゅうに入る学問は、その対象生物の種類と量、対象の場の広いことなどのため、研究の分野も広く、従つて学会活動も多岐にわたつてゐる。これを簡単に述べるとは難かしいが、大雑把にいうと、漁撈製造、増養殖、資源、海洋などに関する実際の研究や、それに必要な基礎的研究の推進の役割を演じ、成果の発表の場を与えてゐる。会員数は約二〇〇〇人である。

水産学とは、このようにぼろ莫としてゐるためか、研究の方法論は、主として他の学問の水産生物への応用という形で行なわれてゐる場合が多い。従つて、非常に実用的な研究の一方、他方では水産生物を用いたというだけのアカデミックな基礎研究も同時に発表されたりしてゐる。しかし、水産学が、水産業の将来の発展のためにという目標を掲げてゐる限り、研究は、社会科学あるいは経済学的な観点からも討論されねばならないと考えられる。残念ながら、現在の研究が、将来の水産業に対してどのような意義を有し、どのように社会に働きかけてゆくであろうかという面は少なく、純粹に「自然科学的研究」の名のもとで行なわれている結果も多いようであ

る。

「水産学榮えて水産業すたる」という酷評さえある現在、漁業経済学的観点から、現在の技術の水準と研究の方向性について相互の交流がかなり必要になる時機はそう遠くはないと信じてゐる。(会費年額一九〇〇円、入会者は水産学会員二名の推せんが必要)。

(淡水研 里 見 至 弘)

### 水産研究者全国会議

水産研究者全国会議と名を冠した水産研究者の全国統一組織は、一九六二年に創立されましたが、それまでに長い自主的な研究活動を続けてきた、雑誌「水産科学」を支えていた若い水産学者によつて、創られたと言えます。そこでは水産研究の進め方並びに研究の方法等につき討論し、研究者相互の理解を深め、これらを推進するための諸活動を行なうことを盟としてゐます。そして機関誌「水産科学」誌上での科学論の討論や、職域、支部での討議を軸に、広く水産科学者の広場としてその役割を果たしています。現在八海区水研はもとより、多くの大学水産学部・科、地方庁水試等の研究者、技術者を中心に、凡そ三〇〇名を超

えるまでに育ちました。また第六期、第七期の学術会議には、統一して選んだ代表を送っています。近來の国立研究機関を的とする研究阻害の事例や、研究体制の一方的改変など、現実の社会、政治情勢のなかで生じている研究の自主性阻害をみると、水産研究者の全国組織がその機能を充分に發揮し、科学本来の發展を目的とした民主的討論を経て、研究の自主性を曲げないための科学活動を推進することに意義があります。また当然科学者が組織的に果さねばならない役目と言えます。

(水産研究者全国会議事務局 宇佐美修造)

### 西日本漁業経済学会

一〇月三―五日熊本にて

西日本漁業経済学会は第八回学会を 来る一〇月三、四、五日に 熊本市手取本丁二四熊本県福祉会館で開催の予定であります。

三日は討論会「ノリ養殖業をめぐる諸問題」について、技術、経営、流通消費、輸入の面から問題提起がされます。四日は、個人報告、五日は天草方面の見学の予定です。

### 中国漁業代表团、九月に來日

中国漁業代表七名が、九月に漁業関係各界の著名人による歓迎委員会の招待で來日、一ヶ月間、東京、福岡、長崎、山口、広島、和歌山、三重、静岡の八県を訪問し、

### 民間研究所の活動

水産経営技術研究所——會員岡伯明、秋谷重男、石川の三氏で テーマ ノリの生産費分析、漁業共済、中小漁業経営分析、冷凍魚の需要、利根川河口堰補償と多方面に汎って研究調査をしている。

水産事情調査所——高橋富士夫、松田茂久、青柳四郎の三氏で本年度は二〇〇トン以上の中経営と協同組合組織の調査、昨年 ノリ流通の全国調査、マグロ延縄の賃金体系の變遷と影響の研究調査

需要研究所——會員石井金之助(沿審委員)他五名で水産物を含めた食品の流通研究——冷凍魚需要流通の現状分析、高まりつつある冷凍魚需要(農村地帯の寒魚)水、畜産物の需要測定等の調査研究を行った。

### 「編集後記」

学会は一二年の歴史をもち、會員數も三〇〇名を越す組織となりました。一応定着したと言えましょう。今年の学会を振り返ってみると、若干研究が行政に引づられていた印象を受けました。科学は権力からの干渉や影響を排して、探求さるべきです。この学会は巾広いので行政や資本の要請に答える研究もあるが一方に漁民のための研究も多くなされる。

とが必要ではないかと考えます。同時に漁業を取巻く関連産業や漁業と対立する工業の動きなどから国民経済における水産業の位置づけ等も知る必要があると思います。これらが学会で繰合さることによって日本の水産業全体の正しい認識と今後の展望も得られると考えます。

次に会の財政状態です。最近の帳簿尻を見ると総て合せて一八万円の負債になっています。會員の会費納入が極端に悪く、前々年度、その前年度分も納入してない會員が何人かいることです。少く共、前年度分迄は完納しないと、会の運営は止ってしまふ(現に印刷屋に一号分の支払ができず、次号は原稿が集っているが印刷に入れられない)というふうなべき状態です。財政問題打開策として、種々の方法も考えられるとは言え、會員が会費を完納することが先決であり、会の財政基礎を會員の出費に負い、第三者の出費等は二次的にのみあるということはその団体の自主独立のためには鉄則とも言えると考えます。このことは、多くの會員が水産関係諸団体の調査研究や職場の労働組合の経験を通じて認識させておられることと思ひます。どうか、学会活動ができるように、未納の方は速かに滞納会費を納入して下さいよう願っております。

(西村)